

歴史は未来の羅針盤

# 温故知新

これまで刊行しました、『近江日野の歴史』  
第一巻「自然・古代編」、第二巻「中世編」、第  
五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」、第八巻  
「史料編」は、教育委員会や各公民館などに  
いて、一冊四、〇〇〇円で好評販売中です。ぜ  
ひともお買い求めください。

町史編さん室では、以前から昔の風景や行事を写した古写真を集めています。その成果をもとに、平成十七年度には町内の皆さんからご提供いただきました写真を展示した「古写真絵巻ひの」を開催しました。その後も古文書調査の時などに古写真をご提供いただくことがあります。今回はその中の一枚をご紹介します。

## 一枚の写真から

下の写真は、西明寺川に架かる大字音羽の多々木橋の写真です。蔵王方面を向いて撮られており、左奥には水無山や綿向山が写っています。おそらく橋が竣功したことを記念して撮影されたのでしょう。まず、この写真からわかることをよみとっていきます。

向かって右側の親柱には「多々木橋」、左側には「昭和五年十月竣功」の文字が刻まれていますので、橋の竣功が昭和五（一九三〇）



▲昭和5年の多々木橋

年だったことがわかります。次に、写真に写っている人たちを確認しましょう。この写真には、十七名の人たちが写っています。竣功の記念だからでしょうか、多くの人が羽織袴を身に着けて正装しています。羽織袴の服装でも帽子を被ったり手に持ったりした人が多く見られます。これはこの時代ならではの服装でしょう。この

時の西大路村村長桜本末次郎さんや、村長経験者の関谷直次郎さんなどが写っています。

また、左端には制服を着た駐在さんが、右端には他の人たちと比べて軽装の人が写っています。軽装の人は、おそらく実際の工事に携わった人たちだと思います。

工事が完了して間もない時の写真なので、周辺の草木はきれいに刈られていて、写真ではコンクリートの橋脚がはつきり見えます。また、橋の周辺は、石の護岸が施されていたこともわかります。

## 風景を見くらべる

では、この場所は現在どのような姿になっているか、最近撮影したもう一枚の写真から確認しましょう。橋の欄干は上の写真とは形が異なりますので、付け替えられていることがわかります。しかし、竣功年が刻まれた親柱は、変わっていません。また、石の護岸も、



▲現在の多々木橋

写真で確認できる範囲では変わっていないようです。

しかし、橋のまわりの風景は大きく様変わりしました。道はアスファルトで舗装され、橋の対岸の藪は切り開かれています。工事直後に刈られていた木々は大きく伸び、今では橋の手前から左奥の山を望むことができませぬ。

私たちがいつも目にする風景は、時とともに変化しています。古い写真は、その時代の風景や人びとの暮らしや文化を反映した、歴史資料なのです。近現代編では、このような昔の写真を掲載する予定です。どのようなものでも結構ですので、古写真に関する情報をぜひお寄せください。